

平田学区自治会活動

～地域の‘ゆるやかなつながり’による地域活動～



【平田学区】

■世帯数：3,746 世帯

■人 口：8,700 人

■面 積：1.553 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区全域で、「交通事故死ゼロの日」等のパトロールを実施。学区内の主要交差点に旗を持った見張り番が立つほか、広報車を使った啓発活動を朝8時～8時40分の間で実施している。
- 住民の交流が深まるよう、小学校や学校体育センターで学区運動会、盆踊り大会を開催するほか、コミュニティセンターでコミセンまつり等を開催しており、延べ3,000人が参加する。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

自分たちのやれることを自分たちで、地域のいろいろな人の“ゆるやかなつながり”をもって継続して実施している。また、行政に頼らず、自治会主体で自律的に活動している。

2 きっかけ、背景

交通事故死ゼロの日の立ち番の割り振りを行うが、現役世代はできないこともある。だからといって周囲が批判しては、地域活動の担い手がいなくなってしまう。そこで、立ち番ができない場合でも、地域として交通事故ゼロを啓発するため、学区の広報車を使って呼びかけを行っている。また、住民の交流行事もできるだけ役員の負担にならないよう、皆で助け合って開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

町内会・自治会長 計約 30 人

(2) 他団体との協力

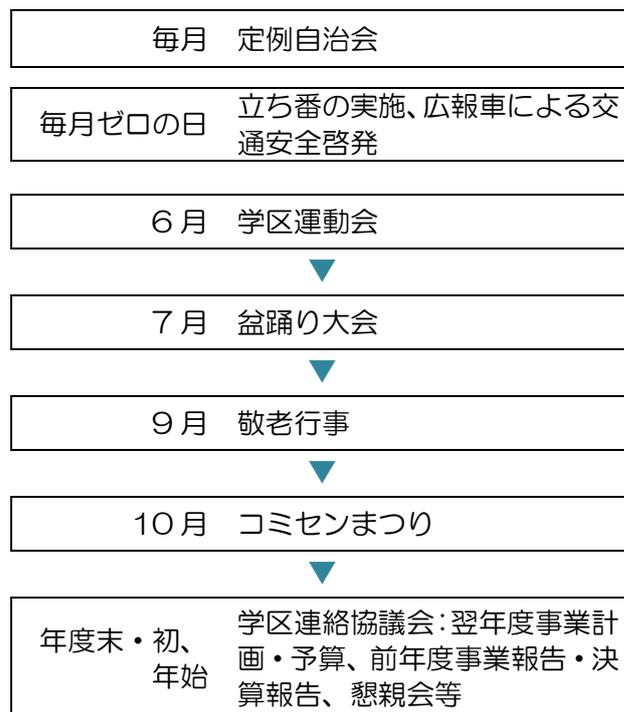
P T A や子ども会など地域の団体と協力して実施するケースもある。

(3) 運営協力

交通安全の立ち番などは順番の割り振りを行うが、できない場合には自治会長がフォローしている。

※無理をしたり、できないことで批判があるとやり手がなくなるため、助け合っている。

4 実施のスケジュール



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 割り振りどおりできないことに批判があると、やる気が薄れてしまう。できる範囲での協力を求めることで、地域のつながりを保っている。



(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ることや、活動の担い手不足。行政に言われたからやるのではなく、自分たちでできる範囲のことをやるのが大切。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代が課題である。現役世代が活動に取り組むことは、時間的に難しいので配慮している。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ いろいろなことに手を出しすぎて住民の負担になってはいけない。また、役員をはじめ、運営者の負担を少なくしていくことが大切。
- ・ 住民の側を向いた活動を、住民同士の“ゆるやかなつながり”のもと、自分たちで取り組んでいくことが大切。